

大学図書館の学校図書館支援事業

－三重大学附属図書館の事例から－

中 井 えり子, 伊 東 直 人, 佐 藤 義 則

抄録：三重大学附属図書館では地域貢献活動の一環として、平成16年度から、三重県津市教育委員会と連携して津市内の学校図書館の活性化支援を開始した。これは、津市教育委員会が文部科学省から「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」として平成16年度から18年度までの3年間、予算配分を受けて実施するものである。大学図書館と学校図書館の連携は、全国的にも事例がほとんどみられないため、本稿でその概要を紹介するとともに、今後の課題と発展性について論じる。

キーワード：三重大学附属図書館 三重県津市教育委員会 大学図書館 学校図書館 地域貢献 学校図書館資源共有ネットワーク推進事業

1. はじめに

三重大学附属図書館は、かねてより地域への貢献を重要課題として位置づけ、三重県内の地方自治体との連携によるシンポジウム、展示会の開催や、一般市民に対する情報リテラシー教育支援事業などに取り組んできた。これらは文部科学省の『国立大学図書館の特色ある取組』¹⁾としても紹介された。また、大学図書館と公共図書館の連携という面では、三重県立図書館を中心に整備が進められてきたMILAI（三重県図書館情報ネットワーク）²⁾に参加し、県内公共図書館と図書の貸借や文献複写の相互利用を推進している。これらの活動は、三重大学の中期目標・中期計画における「知の支援」、すなわち「地域の図書館等、情報関連機関やNPOなど外部団体に対して、情報サービス体制の向上を図り、大学の知的情報を提供する」という計画に沿うものである。

こうした中、平成16年度からは、津市教育委員会の要請を受けて「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」（文部科学省委嘱事業）に参加し、学校図書館、公共図書館、大学図書館による地域連携事業として、学校教育活動の充実に取り組むこととなった。学校図書館と公共図書館、公共図書館と大学図書館の連携は数多く見受けられるようになったが、3者による連携についてはあまり例がない。三重大学附属図書館としても、学校図書館との連携を従来から特に積極的に検討してきたというわけではなく、今回の事業への参加は津市教育委員会からの要請に応える形で始まった。科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会による『学術情報基盤の今後の在り方について（報告）』³⁾の「II. 学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について」において、「大学

図書館と社会・地域との一層の連携の推進」が必要とされている。ここでは、学校図書館との連携については直接的に言及されているわけではないが、「今後は資料の相互利用に留まらない、大学図書館職員が有する専門的知識を有効活用した取り組みも必要である」とされており、以下に紹介する三重大学附属図書館の取り組みは、こうした方針にも合致する活動と言えよう。

本稿では、最初に文部科学省の学校図書館資源共有ネットワーク推進事業の概要を、次いで津市教育委員会での取り組みを紹介したうえで、その中で三重大学図書館の取り組みについて説明し、さらに今後の連携の在り方・発展性や課題について述べることにしたい。

2. 学校図書館資源共有ネットワーク推進事業の概要

（1）国における読書活動推進の動向と文部科学省の施策

平成12年12月の『教育改革国民会議報告』⁴⁾、平成13年12月の『子どもの読書活動の推進に関する法律』⁵⁾の公布・施行を受け、平成14年8月には国の『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』⁶⁾が閣議決定された。この計画は「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備を推進すること」を基本理念とし、平成14年度から平成18年度までのおおむね5年間にわたる施策の基本的方向と具体的な方策が明らかにされた。

「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」は、平成16年6月に平成18年度までの3年間の新規事業として決定され、全国34地域で事業展開される

こととなった。この事業は、学校図書館の蔵書データベースやネットワークを利用した教育実践の共有化、蔵書の共同利用を推進するとともに、学校図書館関係者の資質向上を図る研修プログラムの開発を目的とするものである。

特に指定地域では、学校図書館の諸活動を支援する中核的役割を果たす学校図書館支援センターを設置し、学校間の蔵書の共同利用、公共図書館等との連携を推進すること、また、優れた実践事例の収集と情報提供、学校図書館関係者の資質向上を図る研修体制等を推進することなどが求められている。

（２）津市における「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」の概要

① 事業実施のねらいと主な事業内容

津市では、学校図書館の活性化と子どもの学習活動・読書活動の充実のため、平成15年度から学校図書館と津市図書館との連携を開始した。ここでは、連携を進める小学校のモデル校（1校）を指定し、津市図書館の司書による学校図書館運営に対するア

表1 「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」
文部科学省からの予算配分額

	諸謝金	委員等 旅費	教職員 研究費	合 計
平成16年度	3,050	179	3,841	7,070
平成17年度	4,472	257	5,708	10,437
平成18年度	1,504	214	4,308	6,026
合 計	9,026	650	13,857	23,533

(單位：千円)

ドバイスや子どもへの読み聞かせ会、および市内の司書教諭や保護者ボランティアに対する図書館教育推進講座等を実施してきた。こうした取り組みを通じ、学校図書館の活性化や子どもの読書活動の充実のためには、司書教諭等が図書館運営のための専門的な知識や技能を高めるだけでなく、常に学校図書館を支援できる人材及び体制を学校の内外に育成・確保することの重要性が改めて確認された。津市の小学校、中学校には学校図書館司書がいないために、蔵書構築、図書目録の作成・管理といった運営面だけでなく、十分な開館時間の確保さえ困難な状況にあり、この点をどのように打開するかが問われることになった。

このため、平成16年度からの当事業においては、司書資格者の公募採用とモデル校への派遣、保護者ボランティアの募集と組織化により、学校図書館における最低限のサービスを可能とするとともに、司書教諭等の教職員や保護者ボランティアを対象に、学校図書館の運営に関する講座を毎月開催し、今後の展開のための人材の育成に努めることとした。

なお、文部科学省からの予算配分額は、3か年総計で2,353万3千円であった（表1）。また、この事業内容の概念図は図1のとおりである。

② 各年度の取り組み

＜平成16年度＞

○津市図書館司書による学校図書館運営の研修講座
の開催

平成16年度は、4校（養正小、北立誠小、西が丘小、雲出小）をモデル校に指定し、毎月、モデル校を会場に津市図書館の司書を講師として研修講座

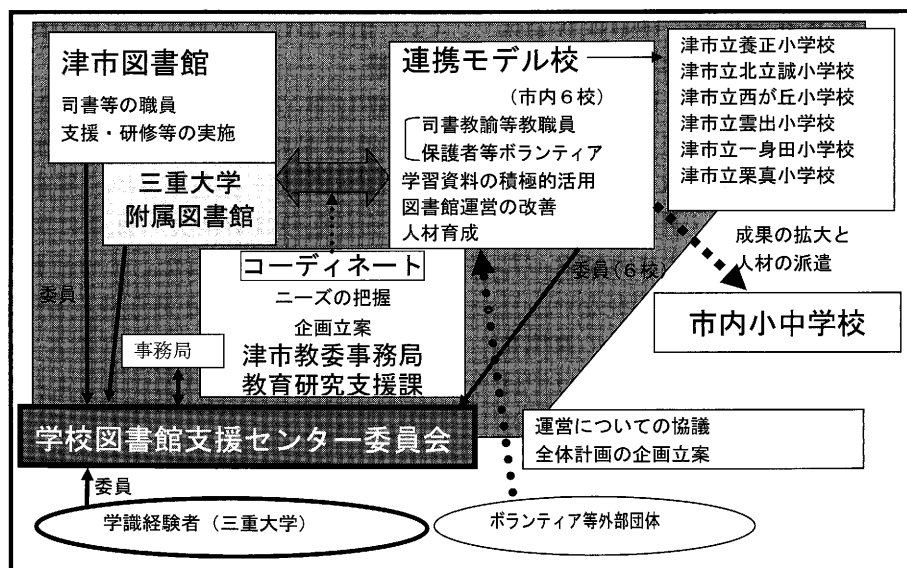


図1 学校図書館資源共有ネットワーク推進事業の概念図

を開催し、図書館運営について館内掲示物の充実や蔵書の修理、読書指導の在り方等について研修を行ってきた。研修講座は合計12回開催し、モデル校以外の小中学校の図書館担当の教諭や保護者等のボランティアも受講し、延べ306人の参加があった。詳細については、表2に記載した（以下平成17年度・18年度についても同じ）。

○学校図書館巡回指導員によるモデル校の学校図書館運営の支援

平成16年12月に、司書資格を有する学校図書館

巡回指導員を公募し、7名をモデル校に派遣した。各指導員は学校図書館での活動経験が少ないため、平成16年度はモデル校に重点的に派遣することで、学校図書館の活性化と学校図書館を活用した学習活動や読書活動の充実に向けた支援についての具体的な方法を実地に研修することとした。

○保護者等ボランティアの組織化と活用

学校図書館の運営は、これまで司書教諭や図書館担当教諭が行ってきたが、授業の持ち時間や他の校務分掌等の関係から、図書館を常時開館しておくこ

表2 図書館運営研修講座開講状況（平成18年度は7回以降は予定）

平成16年度	平成17年度	平成18年度
①子どもの読書意欲を高めるブックトーク（実演の講習）	①書架配架の改善	①魅力ある学校図書館作りとその運営：はじめの一步
②読書意欲を高める効果的な開架と心が安らぐ読書空間作り	②ブックリストの作成	②読み聞かせのテクニックと選書のポイント
③新鮮な読書意欲を喚起するテーマコーナーの設置	③蔵書の修理	③蔵書の修理－背表紙の破損、日焼けした背表紙の修理等
④蔵書を生かす資料整理とブックコートの実習	④パネルシアターの活用について、図書館まつりに生かす活動やグッズ	④図書館資料紹介のためのPOPの描き方
⑤大好きな子どもを育てる図書館活動（読み聞かせの実践、アニメーション入門の入門）	⑤図書館ボランティアの活動について	⑤第1回三重大学附属図書館との連携講座 図書館案内の作り方No.1
⑥子どもが足を運びたくなる図書館づくり（カウンター周辺及び壁画ディスプレイの構成）	⑥図書の購入と選書について；図書の分類と配架の方法について	⑥学校図書館を活用した授業研究
⑦学校図書館における学習等の資料収集と活用について	⑦各図書館ボランティアの活動の情報交換	⑦第2回三重大学附属図書館との連携講座（10月27日実施予定）図書館案内の作り方No.2
⑧学校図書館におけるボランティアの活用について	⑧子どもたちを惹きつけるお話会の運営	⑧栗真小学校で実施予定11月16日 学校図書館の活性化とボランティアの役割
⑨保護者等ボランティアによる読み聞かせ活動の実施；ボランティア活動についての意見交換会	⑨学習活動を支援する学校図書館、その役割	⑨事業成果報告会 （11月27日実施予定）
⑩学校図書館へ足をはこびたくなる“しかけ”づくり	⑩中学校図書館の運営について	⑩（中学校で実施予定）12月
⑪子どもが図書館に親しむ活動作り	⑪学校図書館のための情報リテラシー入門講座（三重大学）	⑪（小学校で実施予定）1月
⑫子どもたちを温かく迎える新学期の図書館づくり	⑫情報メディアの活用（三重大学）	⑫第3回三重大学附属図書館との連携講座（1月実施予定）
	⑬パスファインダーの制作（三重大学）	⑬（小学校で実施予定）2月
	⑭パスファインダーの制作発表（三重大学）	⑭（中学校で実施予定）3月
	⑮＜講演会＞学校図書館の情報化とメディアリテラシー教育	

とが困難な場合があった。そこで、本事業を行うにあたり、各校において保護者等のボランティアを組織し、学校図書館に常駐して活動支援を行うことができるように図った。

ボランティア活動の内容としては、休み時間等でのカウンター業務や図書整理、館内掲示物の作成などである。また、保護者ボランティアによる読み聞かせ会の実施など、直接、児童の読書活動を支援する内容にも及んだ。

○三重大学との連携

学校図書館を支援する協力機関として三重大学附属図書館が、蔵書の貸借と併せて人的な支援を行った。研修講座での助言とともに、三重大学の学生もボランティアとして参加し、モデル校における「図書館まつり」で人形劇を演じた。詳細は「3. (1) 各種事業への参加」で述べる。

<平成17年度>

○津市図書館・三重大学附属図書館による研修講座の開催

学校図書館の活性化を図るため、司書教諭・図書担当教諭、保護者等ボランティアを対象にその人材育成及び資質向上を図るため、毎月、モデル校を会場に津市図書館の司書を講師として研修講座を開催（10回）するとともに、三重大学附属図書館において大学教員等による講座（4回）や、講演会（1回）を開催するなど、延べ521名の参加者があった。

○学校図書館巡回指導員の派遣

司書資格を有する学校図書館巡回指導員を、モデル校6校（養正小、北立誠小、西が丘小、雲出小、一身田小、栗真小）、および連携協力校の小中学校（片田小、安東小、神戸小、南が丘中、南郊中、一身田中）に派遣し、学校図書館の活性化を図った。特に中学校の図書館においては、新たにボランティアの組織化が始まるなど、活性化に向けて活発な動向の変化が見られている。

学校図書館巡回指導員の主な活動は、図書館運営に対する指導・助言や運営の補助、また、司書教諭と連携し、児童生徒の読書活動や学習活動の支援に当たっている。具体的な活動を時系列で列举すると、次のようになる。

- ・書架整理・書架の配置換え・図書修理、壁面掲示作成
- ・古い蔵書の破棄・新刊本のパソコン入力
- ・図書館だよりの発行や各コーナーの設置
- ・カウンター業務の補助
- ・津市図書館団体貸出の運搬
- ・児童の図書委員会活動への支援

- ・授業における教員へのサポート（学習資料の収集等）
- ・保護者ボランティアへの指導
- ・毎月の研修講座の講師

○学校図書館、公立図書館の資料を活用した学習活動－公開授業の実施

次のように、2回の公開授業を実施した。

第1回 平成17年11月15日（火）北立誠小6年生（理科）「火山や地震について調べよう」

第2回 平成18年2月9日（木）養正小3年生（社会）「人びとのくらしと道具～図書館を活用して調べよう」

○各校における保護者等ボランティアの組織化と活用

これまでの人材育成により、平成17年度は各校における学校図書館を支援する保護者等のボランティアの組織化が一層推進され、平成17年9月の時点でモデル校に92名、モデル校以外119名、合計211名の保護者等ボランティアが活動を行った。主な活動内容は、読み聞かせ会、図書館カウンターサポート、図書館の飾りつけ（壁面の模様替えやテーマコーナーの設置等）などである。

<平成18年度>

平成18年度は、これまでモデル校を中心に派遣してきた学校図書館巡回指導員を他の学校にも積極的に派遣するとともに、研修講座をモデル校以外の学校でも開催するなど、これまでの事業成果の積極的な拡大に努めることにした。また、平成18年1月1日の市町村合併による市域の拡大に伴い、学校数も大幅に増加した。市立図書館も津市津図書館（合併により津市図書館から改名。）をはじめとして9館2室となった。こうした状況も踏まえ、各館がこれまで取り組んできた団体貸出等による学校支援の活動を、今後も積極的に推進していくとともに、団体貸出による資料の運送業務委託や、学校図書館巡回指導員を活用した団体貸出の選書などに取り組んでいくこととし、以下を重点項目として設定した。

- ・授業での活用の推進
- ・津市津図書館司書による学校図書館運営に係る研修講座の充実と支援プログラムの作成
- ・三重大学附属図書館との連携による、より専門的な研修講座の開催
- ・学校図書館巡回指導員のモデル校以外の小中学校への派遣
- ・学校図書館を支援できる保護者等ボランティアの組織化とその育成・活用
- ・団体貸出制度による津市津図書館（9館2室）の

資料の学習活動への積極的な活用

- ・団体貸出図書の運送に係る民間委託
- ・コンピュータのより一層の活用による図書館の学習情報センターとしての機能強化
- ・民間ボランティアなど外部団体との連携による学校における読書活動の充実
- ・連携モデル校の読書活動発表会の開催

③ 学校図書館支援センター委員会の設置

これまで述べてきた事業の推進にあたっては、「学校図書館支援センター委員会」により、研究及び事業展開の方向性を検討して進めてきた。

平成16年度の委員会は、委員長1名（三重大学人文学部教員）、三重大学図書情報部職員3名（部長1名・課長2名）、津市津図書館職員3名、連携モデル校校長4名、津市教育委員会事務局職員4名の15名で構成した。平成17、18年度においては、委員長1名、三重大学学術情報部職員3名（部長・課長・課長補佐各1名、但し、平成18年度からはチーム制導入のため、課長はチームリーダー、補佐はサブチームリーダーと改称された）、津市津図書館職員3名、連携モデル校校長6名、津市教育委員会事務局職員5名の18名とした。

学校図書館支援センターおよび各関係組織の相互の関係については、図1を参照されたい。

3. 三重大学附属図書館と津市教育委員会の連携事業

(1) 各種事業への参加

学校図書館と津市津図書館は、すでに平成15年度から連携を始めており、司書が学校図書館を訪問して図書館運営へのアドバイスをしたり、司書教諭を対象にした図書館教育推進講座を開催していたが、大学図書館に何ができるのか明確だったわけではない。津市教育委員会から事業への協力要請があった後、同教育委員会、津市津図書館及び三重大学の支援担当者が集まって、初顔合わせを行い、それぞれが所掌する学校図書館、公共図書館、大学図書館の概要を紹介し合ったが、大学図書館側としては、全くゼロからのスタートであった。

そこでまず、平成16年度は毎月実施されている津市津図書館と学校図書館の連携事業の一つである研修講座（表2）に2回出席して、学校図書館の実態を把握するとともに、学校図書館の保護者等によるボランティアや司書資格のある学校図書館巡回指導員の活動の様子を見学した。内容を一部紹介すると、12月に開催された第9回研修講座では、保護者等ボランティアが実際に児童の前で読み聞かせを実

演したあと、活動についての意見交換が行われた。学校図書館の改善の様子、読み聞かせ活動や図書館運営に関わる課題などがモデル校ごとに報告され、最後に大学図書館からコメントを行った。この研修講座は、津市教育委員会からの積極的な参加要請もなかったため、実際に大学図書館として支援できることはほとんどなかったが、平成17年度も後述する講習会を担当する情報リテラシー系の職員を中心に、人文学部教員や図書館職員延べ6人が、2回目、3回目及び5回目に参加した。

学校図書館支援センター委員会への参加については、「2. 学校図書館資源共有ネットワーク推進事業の概要」の③学校図書館支援センター委員会の設置のところで述べたとおりであり、三重大学附属図書館の会議室を委員会会場として提供した。

また、学校図書館の利用拡大のために、この学校図書館資源共有ネットワーク推進事業の活動の一環として、モデル校の学校図書館が独自に「図書館まつり」を開催しており、三重大学人文学部の学生2名が参加して人形劇を実演した（写真1）。この間の調整は三重大学附属図書館で行ったが、たいへんな好評を博した。



写真1 養正小学校での人形劇

また、年2回三重大学附属図書館で開催される学校図書館支援センター委員会（2.③参照）での議論の中から大学図書館がすべきことを模索した。

平成16年度末の時点では、この支援センター委員会で、埼玉県さいたま市や千葉県市川市など他県の学校図書館資源共有ネットワーク推進事業の取り組み状況を聞いたり、学校図書館活性化の実績や課題を話し合う中で、モデル校でも学校図書館専任の事務職員が配置されていないこと、司書教諭数も1校が2名、他の3校は1名しかおらず、学校図書館運営に関わる人材が不足していること、学校図書館利用活性化のためには、ボランティアや学校図書館巡回指導員にも、もっと情報を活用する知識が必要であることがわかった。

三重大学では、学校図書館司書教諭講習を実施し

ており、図書館情報学の講義も開講されていることから、学校図書館関係の図書を所蔵していること、また教育学部には学校教育教員養成課程があるため、絵本類も所蔵していることから、この事業の関係者に三重大学の図書館をもっと活用してもらえるようにする必要性も感じた。

平成16年度の第2回目の学校図書館支援センター委員会で、モデル校の発言から、教員たちがもっと大学図書館を利用したいという希望があることや、その反面、実際には利用の仕方が知られていないということもわかった。図書館のホームページで広報しているが、やはりそれだけでは、なかなか一般市民には周知できず、大学はまだまだ敷居が高いと思われることも実感した。

(2) 講習会の開催

このような状況を踏まえて、平成17年度には、学校図書館のボランティア、学校図書館巡回指導員及び司書教諭を対象として、ウェブ上の情報資源を対象とする情報検索の講習会を三重大学で実施することにした。その概要は次のとおりである。なお、この4回の講習会は、平成17年度図書館運営研修講座15回のうちの4回分として位置付けられた。

① 学校図書館のためのリテラシー入門講座（8月24日 参加者数22名）

三重大学附属図書館の情報リテラシー係が企画実施した、90分の講習（実習あり）。内容は、三重大学OPAC、MILAI、NACSIS Webcat、Webcat Plus、CiNii等を用いて、より適切な図書や情報を探索するために、「どんな」本があるか、その本が「どこに」あるか調べる方法、さらにその本の価格を調べる方法の講習と実習を行った。また、通常の図書館運営研修講座では定例で行われる「おすすめ本の紹介」も行い、三重大学が所蔵する絵本2冊を解説・紹介した。

② 情報メディアの活用（10月25日 参加者数31名）

人文学部の講義「情報メディアの活用」を公開したもので、情報リテラシー係が実習の補助を担当する90分の講義。テーマは、「インターネットを使った情報・情報源の探し方：グーグルを使おう」で、その内容は検索エンジンの成り立ち、基本的な使い方、説明、例題による実習などであった。

③ パスファインダー⁷⁾入門講座（12月13日及び1月17日 参加者数 21名）

②と同様に、人文学部の講義を公開したもので情報リテラシー係も一部担当する90分の講義。参加者は各チームに分かれて、それぞれが自由なテーマ

でパスファインダーを制作して、発表を行った。1回目は、パスファインダーとは何か、その有効性、事例などを学び、実際の制作は宿題とした。2回目は、参加者によるその制作発表を行った（写真2）。いずれも附属図書館に隣接する総合情報処理センターのPC教室を会場としたが、最初の講習会では、大学図書館を理解してもらうため図書館見学ツアーを実施した。

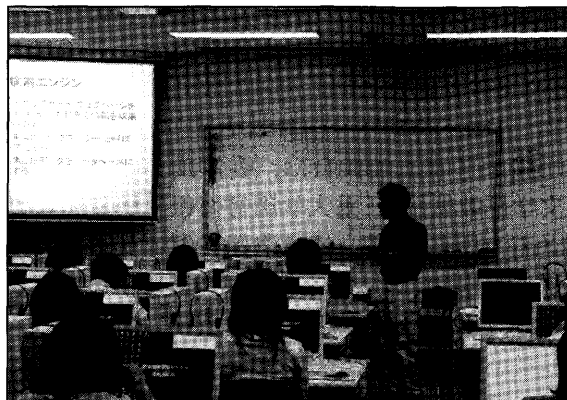


写真2 パスファインダー制作発表会

パスファインダー入門講座は、三重大学附属図書館の職員にとっても初めてのことで、この時点ではまだ図書館としても作成した経験がなく、初めての取り組みであった⁸⁾。実際に講座を終えてのアンケート調査の集計⁹⁾によると、学校図書館でパスファインダーの作成予定がある受講生も4名おり、回答者全員がパスファインダーについて理解することができたと回答している。また、学生と社会人が一緒に大学の講義を受けることについて、学生からは「現場の話が聞けてよかった」こと、学校図書館関係者からは、「大学の講義は難しいと思っていたが楽しく、ためになった」との感想があり、有意義な講習会であったと考えられる。作成されたパスファインダーのテーマは、「津にゆかりの人物について」、「韓国について」、「留学について」、「昔の道具について」、「星座について」、「犯罪心理について」、「公害について」、「観光について」、「障がいについて」であった。また、担当した情報リテラシー係の職員からは、学校図書館関係者が作成したものと、三重大学の学生が作成したものの比較から、パスファインダーを使う対象者が小学生か大学生かによって、使用する資料が異なる、即ち小学生の場合はより身近に得られる資料を使う傾向にあるという違いがでてくることを実感したという感想があった。

全体を通じていえば、学校図書館巡回指導員やボランティアのコンピュータ・リテラシーのレベルに差があって、2～3名の補助者が必須であり、津市

教育委員会の事業担当者が、端末操作の補助や講義に遅れがちな受講生への指導を手伝ってくれたことで大いに助けられた。また、従来は、大学図書館が有料で契約している各種データベース類は、学外者は利用できなかったため、情報検索の講習は通常の学内者向けの情報リテラシー講習会に比べて内容を制限せざるを得なかった。しかし、2005年4月に国立情報学研究所によりCiNiiが公開されたことで、論文レベルの検索実習ができ、充実した学外者向けの講習会を行うことができるようになった。ただし、参加者の大半がボランティアと学校図書館巡回指導員であり、司書教諭や図書館担当教員の参加が少なかったことが残念である。開催日や時間帯を再検討する必要があるだろう。

また、文部科学省から津市教育委員会に配分された経費のうち、三重大学附属図書館に直接配分された予算はなく、せめてこの事業のために三重大学附属図書館で選書して、津市教育委員会で購入した図書の寄託先を三重大学附属図書館とすることを要請しているところである。

4. 事業の成果と今後の課題・展開

学校図書館は、学校図書館法第3条に「学校には、学校図書館を設けなければならない」と規定されている通り、学校教育に不可欠の施設である。平成9年における同法の改正により、附則2項の「司書教諭を置かないことができる期間を平成15年3月31日まで（政令で定める規模以下の学校にあっては当面の間）」とされ、これにより平成15年度以降、12学級以上の学校には司書教諭を必ず配置することとされた。また、平成5年3月に制定された「学校図書館図書標準」¹⁰⁾に続く平成5年度からの「学校図書館図書整備新5か年計画」や、平成14年度からの「学校図書館図書整備5か年計画」によって、これまでに約1千500億円の経費が地方交付税として措置されてきた¹¹⁾。

しかし、根本が指摘するように、司書教諭の必置、学校図書館の整備計画は大きな変化ではあったが、改善にはつながらなかった¹²⁾。平成16年3月31日現在の学校図書館図書標準の達成学校数の割合は小学校で36.0%、中学校で30.8%に留まっている¹³⁾。また、全国学校図書館協議会による2005年度の調査においても、基本となる「人」、「予算」、「資料」の各面で不十分な状況が示されている¹⁴⁾。これらの面で、津市においても困難な状況にあることは変わらない。

こうした中で、「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」において津市の学校図書館支援センタ

ーが目指したのは、何らかの形で「人」がいる学校図書館とし、地域の公共図書館と大学図書館が協力しつつ学校図書館関係者の意識と能力の向上を図り、「資料」を確保するための物流のネットワークを整備することによって、変化のためのきっかけを作ることであった。未だ中間段階ではあるが、図2に見られるようにモデル校の貸出冊数は上昇し、児童一人あたりでは15.7%から57.3%の伸びとなった（表3参照）ことが示すように、モデル校において変化の兆しが見え始めている。また、津市津図書館から小中学校への団体貸出冊数も平成17年度には1万2千838冊と増加した（表4参照）¹⁵⁾。さらに、平成17年9月時点で、計211名（モデル校92名、モデル校以外119名）の保護者等によるボランティアの登録があり、学校図書館に対する関心および協力のレベルは非常に高まっている

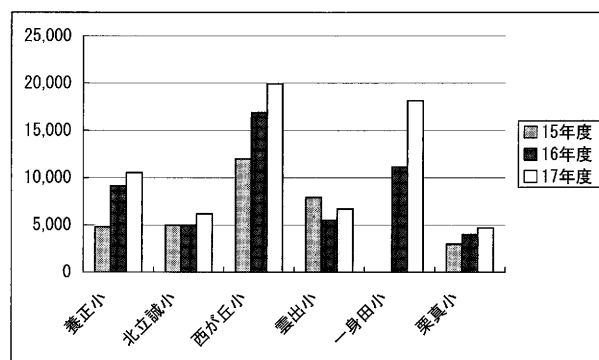


図2 年度毎のモデル校の貸出冊数¹⁶⁾

表3 モデル校における児童一人あたり貸出冊数

	16年度	17年度	増加数	増加率
養正小	32.4	37.5	5.1	15.7%
北立誠小	19.6	23.5	3.9	19.9%
西が丘小	19.5	22.9	3.4	17.4%
雲出小	17.7	21.7	4.0	22.6%
一身田小	16.4	25.8	9.4	57.3%
栗真小	30.4	26.2	5.8	19.1%

表4 津市津図書館からの小中学校への団体貸出冊数

	16年度	17年度	増加数
小学校	5,445	12,721	7,276
中学校	0	117	117

一方、本事業による効果が各方面に及んできているのは確かではあるが、課題も多く残っている。その一つは、学校図書館の授業における活用である。読書活動の充実だけでなく、「総合的学習の時間」

等における図書館資料の活用は重要な課題であるが、なかなか進まないのが実際である。このため、平成18年度においては、研究授業の開催等を通じて浸透を図っていく予定である。また、「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」終了後の、平成19年度以降の継続をどのようにするかという問題である。本来的には、活字文化議員連盟による『文字・活字文化振興法の施行に伴う施策の展開』¹⁷⁾に掲げられた「小規模校(12学級未満)への司書教諭の配置, 学校図書館に関する業務を担当する職員配置の推進」, 「司書業務の担当授業の軽減・専任化などの推進」が求められようが、それらの実現を待つだけでなく、高まった関心と熱意に応える措置が必要であろう。

5. おわりに

最後に、今回の学校図書館支援事業への参加を通して得られた経験をもとに、大学図書館が地域の学校図書館支援事業に参加することの意義および課題についてまとめることとしたい。

三重大学附属図書館としては本事業を通じてこれまで、大学図書館職員の専門性を生かした情報リテラシー支援を中心とした活動を行ってきた。その過程で、上述したような学校図書館の状況においては、運営に不可欠な専門知識やスキルが不足しがちであること、またそれに対し専門職としての大学図書館職員の参加が予想した以上に有効であるということが把握された。科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会の報告にあるように、大学図書館の専門知識を有効活用することがまさに求められていると言える。

こうした活動は、大学図書館や大学に対する認識および理解の向上につながるという点でも重要である。一般に、日頃の生活の中で、大学図書館の存在や活動を意識することは少ないであろうが、本事業への参加を通じ、多くの学校教員、保護者等に関心を持っていただけたものと考えている。また、今回の共同事業に参加することによって、学校図書館関係者、教育委員会および津市津図書館の担当者との連携を高めることができた。このことは今後、地域の大学として活動していくための基盤作りの一つとして捉えることができよう。

今後も、地域のさまざまな図書館とともに、地域を支える大学の図書館として、より一層の充実を図っていききたい。そのためには、継続的、安定的な支援が行えるよう、講習プログラムの開発と蓄積、および職員の資質向上に努めることが必要となろう。

今回の活動が、大学図書館が地域の図書館や学校

とともに成長するための一例になれば、幸いである。

参考文献・注

- 1) 文部科学省研究振興局情報課. “国立大学図書館における特色ある取組について”. (オンライン), 入手先 <http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/04/04042602/003.htm>, (参照 2006-07-18). 及び 文部科学省. “『平成16年度大学図書館実態調査結果報告』について”. (オンライン), 入手先 <http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/05070501/pdf/01_1.pdf>, (参照 2006-07-18).
- 2) 三重県立図書館. “三重県図書館情報ネットワーク”. (オンライン), 入手先 <<http://www.milai.pref.mie.jp/>>, (参照 2006-07-18).
- 3) 科学技術学術審議会学術分科会研究環境基盤部会, 学術情報基盤研究部会. “学術情報基盤の今後の在り方について(報告)”. (オンライン) <http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015.htm>, (参照 2006-07-20).
- 4) 教育改革国民会議. “「教育改革国民会議報告: 教育を変える17の提案」平成12年12月22日”. (オンライン), 入手先 <<http://www.kantei.go.jp/jp/kyouiku/houkoku/1222report.html>>, (参照 2006-7-30)
- 5) “子どもの読書活動の推進に関する法律”. (オンライン), 入手先 <http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/14/08/020805b.htm>, (参照 2006-07-30)
- 6) 文部科学省. “子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画”. (オンライン), 入手先 <http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/003.pdf>, (参照 2006-07-30)
- 7) パスファインダー (pathfinder) とは、ある特定の主題・論題について情報や結論を得るために、関連する資料の探し方や情報源を案内するもので紙媒体やWebのものがある。
- 8) 実際に使った資料 (パワーポイント) は、三重大学附属図書館. “パスファインダー入門” <http://www.lib.mie-u.ac.jp/iln/pf_guidance.pdf> (参照 2006-07-30) を参照のこと。
- 9) “公開授業「情報メディアの活用」パスファインダー入門講座. アンケート集計結果”. (オンライン), 入手先 <http://www.lib.mie-u.ac.jp/iln/pf_lib_toukei.pdf>, (参照 2006-07-20)
- 10) 文部科学省. “学校図書館図書標準”. (オンライン), 入手先 <http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/016.htm>, (参照 2006-07-30)
- 11) 鵜田道雄. “国及び地方教育行政における学校図書

- 館の施策の現状と課題”。学校図書館メディアセンター論の構築に向けて：学校図書館の理論と実践。東京，勉誠出版，2005，p.171（シリーズ図書館情報学のフロンティア，No. 5）。(ISBN 4-585-00288-X)
- 12) 根本 彰. “学校図書館における『人』の問題：教育改革における学校図書館の位置づけの検討を通して”。学校図書館メディアセンター論の構築に向けて：学校図書館の理論と実践。東京，勉誠出版，2005，p. 19-43. (シリーズ図書館情報学のフロンティア，No. 5)。 (ISBN 4-585-00288-X)
- 13) 文部科学省初等中等教育局. 学校図書館の現状に関する調査結果（概要）平成17年4月27日. 学校図書館. No. 657, 2005.7, p. 85-94.
- 14) 全国SLA研究・調査部. 2005年度学校図書館調査報告. 学校図書館. No. 661, 2005.11, p. 37-50.
- 15) ただし，団体貸出は，各学校図書館における資料の整備を代替するものではない。
- 16) 一身田小の平成15年度の数値は入手できなかった。
- 17) 活字文化議員連盟. 文字・活字振興法の施行に伴う施策の展開. 学校図書館. No. 665, 2006.3, p. 48-51.

<2006.8.7 受理 なかい えりこ 名古屋大学附属図書館情報サービス課長 前三重大学学術情報部情報図書館課長，いとう なおと 津市教育委員会事務局教育研究支援課指導主事，さとう よしのり 三重大学人文学部・人文社会科学部研究科教授>

NAKAI, Eriko ITO, Naoto SATO, Yoshinori

University Library's Support for Local School Libraries Development Program : a Case Study of Mie University Library

Abstract: The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) allocates budget for programs that promote school libraries' resource sharing networks. Tsu Board of Education was allocated a portion of the budget for 3 years, beginning in 2004. The Board planned to send volunteers and visiting counselors to several model school libraries. And then the Board launched a Committee of Center for School Library Promotion in order to determine the direction of the program and look into its efficiency. Prof. Sato of Mie University Library takes on the position of chairman of the Committee. Meanwhile Mie University Library staff members serve on the Committee, and participate actively in information literacy workshops with Prof. Sato. Coordination between university libraries and school libraries is not a common activity for university libraries. Therefore we introduce the coordination with Mie University Library and model school libraries of the program, and at the same time we discuss its accomplishments and future prospects.

Keywords: Mie University Library / Tsu Board of Education / University Libraries / School Libraries / Regional Contributions / School Libraries' Resource Sharing Network Promotion Operations